



2000年8月15日  
はじめてのゴデ訪問

埃だらけの地で出会った子供達の無邪気な笑顔、美しい瞳に驚きました。ゴデの病院はマラリアの患者が多く、死に直結している人ばかりです。コンクリートの建物にかろうじて置かれてある古く汚れたベッドの上で、治療手段もなく寝ている人の姿は痛々しいばかりです。子供の病室は、ベッドもなく汚れたボロ布が敷かれ、寝ているのです。ハエや虫が一杯で、水もなく食物もない。医者は聴診器より持っていないと言うのです。何が必要かと問うた時、薬と可動式のレントゲンが欲しいと言いました。私達は必ず送ると約束しました。

悲惨な状況下でありながら、子供達は私達が来た事を喜び、笑い、飛び跳ねるのです。気づくと私は子供達に囲まれ、子供達がかわいくて微笑がこぼれてしまうのです。生命の危機に瀕する人々の中で、不謹慎だと戒めるのですが、子供達が笑い喜び、ずっと付いて来て離れないのです。共に居る時楽しいと感じ、つい笑いが生まれていたのです。別れる時淋しかったのですが、心の中で又来るからね、待っていてねと言い、手を振り別れました。あの子供達が病気であるとは思えぬ程、元気に飛び跳ねていたのです。だから私は又会える事を疑わなかったのです。